

研究指定校名 : 米子市立淀江小学校

1. 学校の概要

学校名	米子市立淀江小学校
学級数	21学級（うち特別支援学級：3学級）
児童生徒数	全校児童数：519人（平成31年1月9日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/yodoe-e/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

豊かな人間関係づくりのためのコミュニケーション能力の育成

～自分の言葉で対話し、わかる、できる、楽しい授業づくりをめざして～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

淀江中学校区では、人権教育に関する育成ビジョンを「『ふるさと淀江を愛し確かな人権感覚を身につけ、支え合い、高め合える子どもの育成』～お互いの顔が見える校区連携を通して～」とし、就学前、低学年、中学年、高学年、中学校で育てたい力を示してきた。そしてこの育成ビジョンを基に各学校・園でどのように力をつけていくかを共通理解してきた。

本校では平成24年度から6年間にわたって特別活動の研究に取り組み、平成27年度からは、「心を育て、つなぐ特別活動の創造～話し合い活動を軸とした『道徳的实践』へのアプローチ～」を研究主題として、道徳的实践につながる特別活動の研究を進めてきた。さらに、喫緊の課題である情報モラルの育成にも家庭と連携を図り、授業研究会を重ねて取り組んできた。研究を深める中で、論点を明確にして話し合い活動をしたり、「課題をつかむ→計画→実行→評価→改善」の一連の経験を積み重ねたりすることで、友達と協力し合って、よりよい生活や人間関係を築こうと努力する集団・個人への変容が見られた。また、平成28年度から、学級活動をはじめとする様々な活動に育てたい道徳性を見定めて指導することにより、自主的実践的な児童の活動が望ましく行われているかどうか、評価しながら指導に当たることができた。

しかし、児童一人一人を見ると、周りの人に自分の思いを適切に伝え、自分から積極的に人間関係を築くことに課題のある児童が少なからずいた。人間関係づくりの困難さには、「自己表現力と他者理解力の不足」があると考えた。

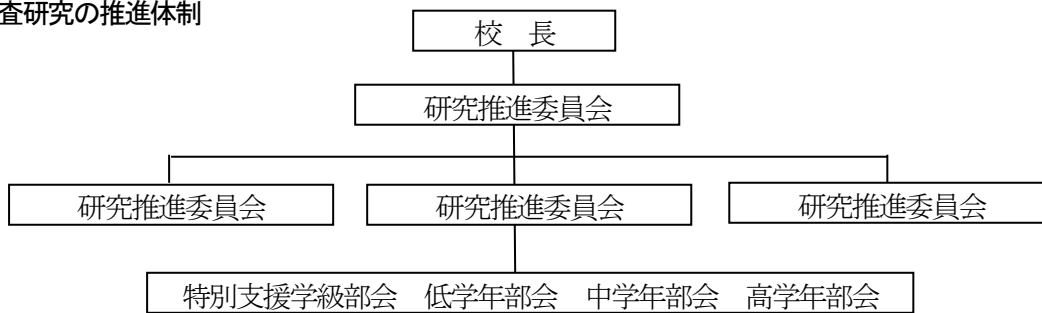
そこで、本課題を克服していくためには、「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」が人権教育を通じて育てたい資質・能力として示している「自己についての肯定的態度(自尊感情)」「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」「能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能」を重点的に育成する必要があると考えた。そのために、「言語環境を整え、教科学習ならびに全教育活動における他の人との関わり方」に焦点を当てた。特に学習における「対話」を重視した授業改善を図り、コミュニケーション能力についての研究をすすめていった。そのためにテーマを「豊かな人間関係づくりのためのコミュニケーション能力の育成～自分の言葉で対話し、わかる、できる、楽しい授業づくりをめざして～」とし、これまで培ってきた「話し合いによってよりよい人間関係を築く力」をつけ、「仲間・家庭・地域と連携をとりながら生活を見つめて、よりよく生きようとする態度」を育てていきたいと考えた。

(3) 取り組む人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	
③高齢者	○

④障がい者	○
⑤同和問題	○
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（ ）	

3. 調査研究の推進体制



〈関係協力機関〉

- 鳥取県教育委員会
- 米子市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

児童の日常からは、自分の意見や考えが通らないと、相手の嫌がる言葉を発することで相手を拒否したり、自分の思いを無理にでも押し通そうとしたり、感情のまま力に訴えようとする姿が見られる。また、逆に自分の思いを発することなく、友達と関わりを持とうとしないこともある。Q-Uアンケートにおいても、「自分の気持ちをわかってくれる人がいる」と感じている児童は47%であった。また、「話を聞いてくれている友達がいる」と感じている児童は59%であり充分とはいえない。そこで、本校の児童にとって、児童同士が対話によって、望ましい人間関係を築き、対話する力を活かして学びや表現力を向上させることは本校の重要な課題と考えられる。

(調査研究の内容)

【研究の仮説】

《仮説1》発達段階に応じた「対話」（「話すこと」「聞くこと」）に関する技術習得や基礎・基本を重視した指導を工夫することが、主体的な学びや表現をつくる。

《仮説2》「対話」（「話すこと」「聞くこと」）能力を育てることが、自他の認め合い、人との積極的なかわりに結びつき、友達・自分・学校が好きになる。

《仮説3》場に応じた対話活動を設定することで、豊かな表現ができるようになる。

【調査研究の内容】

- ① 意識調査・実態調査
 - ア 自尊感情アンケート
 - イ 学校評価アンケート「児童アンケート」
 - ウ Q-U調査の実施及び考察により、その結果を学級づくりの指導に活かす。

- エ 全国学力・学習状況調査及び国語、算数の診断テストの結果から、学力の実態把握をし、意識調査結果と関連づける。
- ② 授業研究
 - ア 学級活動、道徳等
 - ・全学年で学級活動、道徳をはじめとする授業研究会を実施する。
 - ・情報モラルに関する内容を学年から1つ入れる。
 - ・各教科・領域における対話の指導を入れる。
 - イ 人権学習年間指導計画の見直し
 - 人権学習の指導内容について、教科・領域のねらいに沿って見直しを図る。
- ③ 課題別の取組
 - ア 学力向上
 - ・にこにこタイムで対話力の向上を図り、各教科・領域を中心とした教育活動に活用したり、人間関係づくりにいかしたりする。
 - ・一人一人を大切に（ユニバーサルデザインの）授業づくりに取り組む。
 - ・全児童が課題に対して主体的に臨み、協同して解決を図る話し合いを工夫する。
 - ・子どもたちが様々な人と出会う体験を通して、豊かな感性と人権感覚を育む。
 - ・家読（うちどく）を含めたバリバリウィークを推進する。
 - イ 人権教育部
 - ・学校・学級での居場所づくりの推進をする。
 - ・人間関係づくりを進める「きずな活動」の充実を図る。
 - ・Q-U調査、学校評価アンケートを活用した児童理解を推進する。
 - ・情報モラル教育をさらに推進する。
 - ・人権課題をテーマとした学習を推進する。
 - ウ 環境づくり部
 - ・あいさつの輪を広げ、互いのよさを認め合う人間関係を育む。
 - ・情報モラルの学習を通して、生活習慣を見直し、家庭との連携に努める。
 - ・「ふれあい学習」を通して地域人材を活用し、伝統文化の継承と地域行事への参画を図る心を育てる。
 - ・小中連携学校づくりプロジェクトを推進し、児童会・生徒会の交流を深め、安心・安全な学校づくりに取り組む。

（実施方法・検証・評価）

①実施方法

○学力向上

学習規律の徹底、学習習慣の確立とともに、児童がわかった、できたと感じる学習をめざした授業改善を行った。

- ・学習にペア対話、グループ対話を意識的に取り入れ「意図的な対話活動」の工夫を図った。
- ・学習に取り組む姿勢や話の聞き方を学校全体で共通理解するための「よい子の学習10の約束」と「聞き方あいうえお」の掲示と活用を行った。
- ・基礎学力の向上をめざす「パワーアップタイム」を実施した。
- ・保育園から中学校までの家庭での学びの進め方についてまとめた「学びの手引き」を作成し活用した。
- ・中学校の定期試験前に合わせて自主学習を行う「勉強バリバリウィーク」を実施した。
- ・月曜日の朝のスタート時に「にこにこタイム」を設定し、「話の仕・聞くときの態度を身につける時間」として、また「よりよい人間関係を作っていく方法を学ぶ時間」として、「いいことみつけ」や「あいさつジャンケン」な



【意図的な対話活動】



【えがおのともだち集会】

どの活動を取り入れた。

○人権教育・仲間づくり

コミュニケーション能力の向上を図ることによる自尊感情の育成をめざし、学習活動の中に意識的に「対話」を取り入れた。

- ・児童の自尊感情の育成や人権意識の向上を図って「学級のあゆみコーナー」に道徳学習の足跡がわかる内容を掲示に組み入れた。
- ・道徳の授業における自分の考えの整理・変容を見取ることができるように全学級で「道徳ノート」を活用した。
- ・縦割りグループの中で協力することの大切さや楽しさを感じることができる「えがおのともだち集会」を実施した。

○環境づくり・学級活動

「情報モラル学習」を推進し、「情報モラル」について児童が普段の自分の生活を見直し、改善させていくことへの意思決定を図った。

- ・保小中の15年間を見通した情報モラルカリキュラムや、児童への事前アンケートなど、中学校区や学級の実態に合わせた「授業づくりの見通し」を持った学習展開を工夫した。
- ・学級活動(2)で、「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」の4つの活動内容の見直しを図るなど指導過程を工夫した。

②検証・評価

(成果)

○授業に意図的なペア対話やグループ対話を取り入れることや「にこにこタイム」を実施することによって、自信を持って発表できる児童が増えた。また、相手を意識して話す態度、相手のことを考えて聞く態度が育ちつつある。【集計結果1】

○行事、集会での異年齢での関わり、学習活動での関わりなどを通して、自他を認め合う心や友達、自分を肯定的に受け入れる自尊感情の育成が図れてきている。【集計結果1、2】

○児童が学習に取り組む姿勢や聞く態度を全教職員で共通理解して取り組んだ結果、学習した内容がよくわかると感じている児童が8割上いることがわかる。【集計結果2】

以上の成果は、今まで培ってきた話し合うことにより望ましい生活や人間関係を築く力に加え、学習をはじめとするたくさんの活動に「対話」の場を設定してきたことに起因すると考える。そして、児童が対話によって、学ぶ力や表現力を向上させ、よりよい人間関係をつくる力もつけていると考える。

(課題)

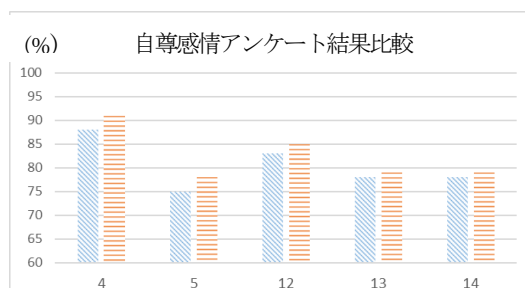
本年度行ってきた実践により成果が見られるが、自分の考えを適切に伝える力や、相手の気持ちを推し量って聞く力をさらに身につけ、今後も豊かな自己表現ができるようにスキルアップを図ったり、自尊感情や情報モラルに関するアンケートを活用して、各専門部の取組をより充実させたりする必要がある。これらの課題をもとに、今後も全教職員で、共通理解・共通実践を図りながら、豊かな人間関係づくりのためのコミュニケーション能力の育成をめざして、継続して指導に取り組んでいきたいと考える。

【集計結果1】

(平成30年2月と平成30年11月自尊感情アンケート結果比較)

4	相手の気持ちを考えながら、人の話が聞けていますか。
5	自分の思ったことを相手にはっきりと言うことができますか。

【「はい」「どちらかといえばはい」と答えた児童の割合】



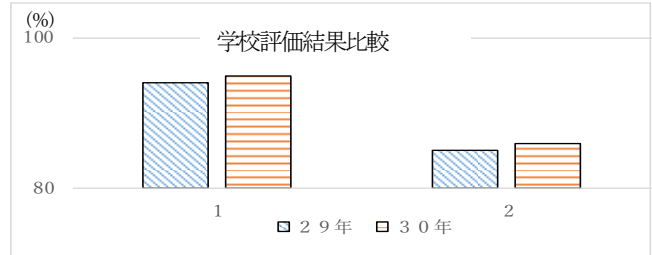
12	自分には、よいところがあると思いますか。
13	自分はだれかの役に立っていると思いますか。
14	今の自分が好きですか。

【集計結果 2】

（平成29年12月と平成30年12月 学校評価アンケート結果比較

【「はい」「どちらかといえばはい」と答えた児童の割合】

1	友達と仲良く遊び、友達を大切にしていますか。
2	勉強はよくわかりますか。



(2) 実施結果

時 期	内 容	備 考
4月25日	研究推進委員会	参加者8人
4月27日	第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 県教育委員会人権教育課 森田泰弘係長 松井貴宏指導主事 市教育委員会学校教育課 竹本周平課長補佐 乗本 学主幹	参加者8人
5月2日	校内全体研修 ・研究の方向、仮説、研究組織確立	全教職員
5月11日	全体授業研究会 6年道徳「あこがれのパティシエ」奥田裕美教諭 指導助言 米子市立河崎小学校 福田宏二教頭	全教職員
5月14日	淀江中学校区教育研究会	参加者36人
6月6日	校内全体研修 「学力向上部会」「道徳部会」「学級活動(2)部会」 ・活動確認	参加者36人
6月7日	全体授業研究会 2年算数「かくれたかずはいくつ」坂本めぐみ教諭 指導助言 県教育委員会西部教育局 柳樂力人指導主事 県教育委員会人権教育課 松井貴宏指導主事	全教職員
6月18日	第1回Q-U調査の実施と分析	全教職員
6月21日 ～29日	カウンセリング週間	全児童
6月 ～10月	各学年授業研究会 全体授業研究会 6年学級活動(2)「SNSへの書き込みの影響」 青山辰熊教諭	全教職員 全教職員
7月4日	指導助言 県教育委員会西部教育局 山根淳吾指導主事 市教育委員会学校教育課 乗本 学主幹	
7月23日	校内全体研修 ・児童理解と児童の個別対応について	全教職員

7月25日	指導助言 スクールカウンセラー 遠藤和美先生 校内全体研修 ・対話についての共通理解 ・各教科における人権教育の視点 ・指導案、紀要についての共通理解	全教職員
7月30日	校内全体研修 ・人権教育研究発表会に向けた授業の準備	全教職員
7月30日	中学校区教育研究会 講演「『めあて—まとめ・振り返り』の徹底を通じた授業改革の取組について」 講師 県教育委員会西部教育局 安部裕城指導主事	全教職員
8月21日	校内全体研修 ・2学期に向けての教育反省 ・道徳の評価について ・教育課程研究集会報告	全教職員
9月26日	淀江中学校区教育研究会 指導助言 市教育委員会学校教育課 乗本 学主幹 勝部百合主幹 県教育委員会人権教育課 森田泰弘係長 松井貴宏指導主事	全教職員
10月3日	校内全体研修 指導助言 市教育委員会学校教育課 勝部百合主幹 県教育委員会西部教育局 玉木敦子指導主事 県教育委員会人権教育課 森田泰弘係長	全教職員
10月11日	第2回Q-U調査の実施と分析	全教職員
10月22日 ～30日	カウンセリング週間	全児童
11月2日	神戸大学附属小学校研究発表会参加	参加者1人
11月19日	米子市中学校区人権教育研究発表会分科会打ち合わせ	全教職員
11月22日	米子市中学校区人権教育研究発表会開催 研究報告の印刷・配付 指導助言 市教育委員会学校教育課 勝部百合主幹 乗本 学主幹 県教育委員会西部教育局 玉木敦子指導主事 県教育委員会人権教育課 松井貴宏指導主事	250部 配布先： 教育委員会 米子市小学校 研究会参加者
11月30日	近畿小学校道徳教育研究大会参加	参加者2人
12月21日	校内全体研修 ・2学期研究反省	全教職員
1月17日	米子市人権・同和教育研究集会 指導助言 県教育委員会人権教育課 松井貴宏指導主事	参加者1人
1月23日	校内全体研修 ・3学期の取組	全教職員
2月14日	第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 人権教育研究推進事業報告会	全教職員
2月20日	校内全体研修 ・来年度の研究の方向	全教職員
2月27日	中学校区教育研究会	参加者36人

	研究推進委員会 ・来年度に向けて研究計画作成	参加者8人
--	---------------------------	-------